

## かけがえのない生命 (マタイ福音書16章26節)

——人の命は地球より重い——



宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

<sup>26</sup>なぜなら、もし人が全世界を手に入れたとしても、自分の生命を失ってしまえば、その人はいったい何の得をしたことになるであろうか。あるいは、人は自分の生命の代価としていったい何を差し出すことができるであろうか。

(マタイ福音書16章26節 [私訳])

### 生命より大切なものはない

マタイ福音書16章26節は生命よりも大切なものはないということを伝えています。ここでイエスが語っているのは、たとえ人がこの世界の全てを手中に収めようとも、その対価として生命を落としてしまえば、何の意味もないということです。なぜなら、富や権力や名声は一度失っても、再びそれを得ることができるのに対して、生命はそれを一度失ってしまえば、二度と取り戻すことができないからです。

### 人の命は地球より重い

イエスのこの言葉に触れるたびに、子どもの頃に聞いた「人の命は地球より重い」という金言を想い起こします。この金言は1977年9月に起こった日本赤軍によるダッカ日航機ハイジャック事件を解決するために、人命第一を旨とする当時の福田赳夫首相が「一人の生命は地球より重い」と述べ、ハイジャック犯の要求を受け入れたときに発した言葉として知られてい

ます。しかし、この言葉は福田元首相が考えたものではなく、1871年に邦訳されたスコットランドの著述家サミュエル・スマイルズ『西国立志編』の訳者序文において、訳者である教育者の中村正直が記した「一人の命は、全地球より重し」という金言に遡ります。

『西国立志編』と聞いても、疑問符が浮かぶかもしれませんが、「天は自ら助くるものを助く」という有名な格言で知られる『自助論』(Samuel Smiles, *Self-Help*, London, 1859) の邦訳書だと説明すれば、お分かりいただけるでしょうか。

『西国立志編』は西洋文明を受け入れ始めたその時代の日本でも100万部を超えるベストセラーになったのですが、第1章の冒頭に置かれている「天は自ら助くるものを助く」という格言に加えて、「一人の命は、全地球より重し」という金言が訳者序文に記されていることに驚かされます。

中村正直は森有礼と新島襄と並ぶ明治六大教育者のうちの3名のクリスチャンのひとりとしても知られている人物です。そのことから推し量ると、

「一人の命は、全地球より重し」という金言は、マタイ福音書16章26節のイエスの言葉に影響を受けてしたためられたものだと考えられるのです。

### 生命の代価など存在しない

マタイ福音書16章26節において、イエスは生命と全世界とを天秤にかけているわけではありません。生命と比較できるものなど存在しないと断言しているのです。それゆえ、イエスは生命の代価など存在しないと断言しているのです。なぜなら、全世界と引き換えにしたところで、生命を買い戻すことなど不可能だからです。

イエスのこの言葉が置かれているのは、マタイ福音書16章21-28節の「受難予告」の場面なのですが、イエスは自らの死が避けられない逼迫した状況であることを悟り、自らの死を覚悟しつつ、自分が今生きていることの幸いを実感し、この世の全てよりも生命の方が大切だという率直な思いを吐露したのではないのでしょうか。

### かけがえのない生命

ここで注目したいのは、生命より大切なものは存在しないというときにイエスが語る生命の捉え方です。ここでイエスが「自分の生命」という限定を付けて生命を理解していることがとりわけ重要です。つまり、イエスは生命を単なる概念や理念ではなく、「自分の生命」というひとりひとりに与えられ

ているかけがえのない生命として理解しているということです。

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症によって、世界中でも日本でも多くの方が亡くなっており、これほどまでに生命の大切さを身に染みて感じることはなかったのではないのでしょうか。日々発表される亡くなった方の人数の多寡についつい目を奪われがちになってしまいますが、そこにはひとりひとりの「かけがえのない生命」(かけがえのない人生/かけがえのない生活)があることを忘れてはなりません。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、まだまだ大変な日々が続きますが、イエスのように「かけがえのない生命」を大切にする毎日を送りたいとの思いを強く持ちます。

新入生のみなさんが新しく始まるキャンパスライフにおいて自らの生命を「かけがえのない生命」としていっそう大切に思える毎日を送り、新たな友人・先輩・教職員といった「かけがえのない隣人」との素敵な出会いがあるように願っています。



【2019年の白樺祭 (大学HPより)】  
キャンパスに学生の生命の息吹が戻ることを願っています!

## communication あなたの世界 (community) を広げて



環境共生学類 資源再利用学研究室 押谷 一

入学、おめでとうございます。

夢と希望を両手一杯に抱えて、新しい一步を踏み出したみなさんが酪農学園大学のひとりとして加わったことを歓迎いたします。

少し不安な気持ちでドキドキしながら、入学式の扉の隙間から酪農学園大学を覗いているかも知れませんね。でも大丈夫、みなさんが心配するような不安な世界ではありません。思い切って扉を大きく開いて飛び込んでください。先輩や教員、職員はみなさんをお迎えしています。

### COVID-19と社会

ところで、あなたにとって大学入学試験を控えた去年は、どのような1年でしたか。

2020年、世界は、新型コロナウイルス (COVID-19) の感染が急激に、そして広範に拡がり社会は大きく混乱した1年でした。大学入学をめざして高校あるいは予備校などで勉強を続けていて困難なこともあったのではないのでしょうか。酪農学園大学も3月の卒業式、4月の入学式を開催することができず、授業も一部の実験や実習などを除いて、パソコンを通じた遠隔での実施を余儀なくされました。この原稿

は、2021年の1月に書いていますが、年末から首都圏を中心に感染が急激に拡大しており、北海道にある大学でも昨年と同じように卒業式、入学式が開催できるのかどうかとても懸念しています。

COVID-19によって、わたしたちは、友人や愛するひとと直接会うことが制限されました。外出もままならず一人で部屋に閉じこもることが多かったのではないのでしょうか。

高度に工業化や分業化が進んだ現代社会では、何一つ不自由なことは無いように思われますが、COVID-19による影響だけではなく、他人とのつながりが希薄になっていることに不安を感じています。とりわけ1人であることに満足し、他人とのつながりは不要であるといった風潮が広がっていることを心配しています。私たちの社会は、肌の色、ことば、宗教、そして仕事などが異なる多様な人びとがつながっていることによって構成されています。

### 人と人のつながりを大切に

ところが、現代の社会では、孤独が老若男女を問わず、あらゆる年代にも広がっているといわれています。人とのつながりがなく、頼る人がいない孤独の状態が続くと人間は、精神と身体がむしばまれていきます。アメリカの



【大学HPより：先輩が植えた白樺の道】

政治学者ロバート・パットナムは、「信頼・規範・ネットワークが重要な社会的仕組みの中では、人々が活発に協調行動をすることによって、社会の効率性を高めることができる」としています。このような人と人とのつながりや信頼関係による協調行動を意味するソーシャルキャピタルの充実度のランクによれば日本は、149カ国中101位であるといわれています。

自分の考えを相手に伝え、相手のことを理解することを意味するCommunication と地域社会のCommunityの語源は、ラテン語のCommunitasであるとされています。ラテン語のmunusは、贈物、義務、好意などの意味があり、相互あるいは共通という意味の接頭辞のco-がついています。地域社会を意味するCommunityも語源は同じで深い結びつきをもつ共同体のことです。

わたしたちの酪農学園大学も小さな

地域社会あるいは、ちょっと大きめの家族のようなCommunityです。キャンパスのなかですれ違う人、教室で隣に座った人、サークルなどで汗を流し、意見をぶつけ合った人、講義を担当する教員、窓口で対応してくれる職員などにつながるようになります。大学のなかで、みなさんは決して一人ではありません。COVID-19で少しだけつながりが制限されてしまうかも知れませんが、多くの人と出会うことを求めてください。

### あなたの知らない世界に向かって

大学は、専門分野の教育を受け、研究を行う場ですが、それ以上に多くの人と出会う機会を与えてくれます。とくに酪農学園大学は、北海道内はもちろんのこと、日本さらには世界各地で社会のために活躍している卒業生や大学と深いつながりで結ばれた関係者が大勢います。酪農学園大学の学生であるということだけで自己紹介が完結してしまうこともあります。僕自身は卒業生ではありませんが、多くの場面で卒業生であることを羨ましく思うことがあります。

他者とCommunicationするためには、少しの勇気と日本語だけではなく様々なことば (言葉) や習慣を知っておくことが必要かも知れませんが、思い切って、未知の人と出会うために踏み出してみてください。そこにはあなたが、これまでに感じたことのない新しい風が吹いていて、きっとあなたをまだ知らない世界 (Community) に運んでくれます。

## 酪農学園大学における様々な「出会い」



馬術部のウマ（左）。  
（1月撮影）。

### はじめに

2020年度は未曾有の災禍でした。生活や勉強、遊びに大きな影響を受けたと思います。今なお不確実な状況が続いていますが、この度入学の日を迎えることができたのは、これまでの皆様の努力の賜物によるものであると断言できます。心よりお祝い申し上げます。

さて、私は2020年度に本学に着任致しましたので皆様よりも1年だけ先輩ということになります。残念ながらコロナ禍により自分のゼミ生以外の学生と交流する機会は多くはありませんでした。そのような状況で皆様にメッセージを書くのですから結構大変です。

そこで、ここでは私の酪農学園におけるヒト以外の「出会い」について書くことで、本学の魅力や特色を知っていただきたいと思います。

### 広大なキャンパスとの出会い

本学の特色の一つは広大なキャンパスにあります。大麻駅から歩いて通学していた学生はスマートフォンの地図アプリが示す「大麻駅から酪農学園までの徒歩での所要時間」を信じてしまったがために、講義に遅刻した経験が一

循環農学類 統計学研究室 毛利 泰大

度はあります（多分）。それぐらい広いです。登校は正門Bをくぐってからが本番だということを覚えておいてください。時間に余裕を持って行動するという社会の大原則を教えてください。

そのキャンパス内の多くを占めるのが圃場で、夏は飼料作物などが育ちます。その脇を自転車で駆ければ、清々しい気分になります。ローンや生協横の芝生で友人とご飯やクレープを食べるのも良いでしょう。斜面から眺める景色はなかなか良いものです。北海道の夏は短く、それ故に貴重です。

キャンパス内で収穫された作物は飼料になります。サイレージの発酵臭を嗅ぎなれていない学生にとっては、最初は臭く感じるかもしれませんが、これはそのうち懐かしい匂いに分類されます。特に卒業後の進路が都市部の学生はサイレージの匂いを感じるたびに本学の風景が想起されることでしょう。



キャンパス内放牧地の牛。呼ぶと柵付近まで近づいてきてくれた。  
（5月撮影）

しかし、なんといっても印象的なのは冬です。冬は一面雪で覆われた北海道らしい風景となります。この風景を暗い静かな朝方に卒業論文執筆や国家試験勉強のために図書館や研究室へ向かう途中で見ることもあるでしょう。そして時折吹く地吹雪は雪国出身では

ない学生にとっては衝撃的です。「寒くて耳が取れそう」と思う経験も数年後にはきっと良い「寒さ自慢の話」になります。

### 動物達との出会い

本学は野幌森林公園に隣接し、自然豊かであるという特徴を有します。また主に農業や生命科学分野の大学であるためヒト以外の生き物を観察する機会が多いです。

私も1年の間にいくつかの動物を目撃しました。それらを以下にリストアップします。

- ・乳牛、肉牛、羊、ウマ
- ・鹿（糞のみ）
- ・犬、キタキツネ、タヌキ、エゾリス
- ・野鳥類（シジュウカラ、ゴジュウカラ、コガラ、ヒガラ、スズメ、アカゲラ、ヒヨドリ、ミヤマカケス）

本学の学生の携帯電話のフォルダにはキャンパス内で撮影した動物の写真が一枚はあるはず。特に道外出身の学生はキツネの写真を撮りがちです。そして道内出身の学生から「エキノコックスがあるから近づかないほうが良い」という助言を受けます（道内出身者にとってキタキツネに近づくことと、冬に自転車に乗る行為は理解し難いものなのです）。



ローンで散歩中の犬。愛嬌をふりまき学生を癒す。  
（7月撮影）

いずれにしても在学中に撮影した動物写真は大切に保存して、帰省の際な

どに誰かに見せてあげてください。彼らの姿は本学のとてもユニークな点の一つでだからです。



B4号館外にいた子狸。ロードヒーティングが作動しているかどうかを冷えたお尻で確かめている。  
（12月撮影）

### おわりに

大学生活というのは人生における大きなイベントです。これから皆様は、エゾヤマザクラの美しさや、湿度の低い夏、森やサイレージの匂い、冬の氷点下の寒さ、講義への出席を阻む地吹雪など、様々なことを経験します。これらの経験は貴重な記憶となり、事ある毎に思い出話やお土産話として、両親や地元の友人などに披露されると思います。その人達がその話を聞いて、笑ったり驚いたりする表情を見るたびに本学入学の喜びを感じることができると思います。

酪農学園大学はイエス・キリストの教えをもとに厳しい北海道の風土において農業者を育成するために設立された背景があります。ご存知のように現在北海道の農業は日本の食を支える重要な役割を担っています。このような地位に至るまでに、先人たちの大きな努力がありました。酪農学園大学はそのような偉大な方々を数多く輩出してきたという最大の特徴を有します。

そして現在、農業にとどまらず、食や健康、生命に関する学問に多くの努力を投下している学生がいます。皆様もその中の一人です。色々なことを経験してください。ご入学おめでとうございませう。

大学礼拝への招待



【コロナ前の礼拝① 礼拝開始前に講堂は満席になることも】

酪農学園大学はキリスト教主義大学として、創立以来大学礼拝を大切にしてきました。授業期間中の毎週火曜日の2時限（午前10時40分～12時10分）は大学礼拝の時間に充てられており、学生、教職員が出席できるよう、この時間には授業等が入らないように配慮されています。大学礼拝は建学の精神である「三愛主義」（神を愛し、人を愛し、土を愛す）を経験する実学教育の場です。年に2度のキリスト教教育強調週間、ゴスペル・クワイアのライブ、韓国の学生たちの特別プログラム、声楽家のコンサートといった多様な機会を提供しています。新入生のみなさんが積極的に出席して下さることを願

いつつ、大学礼拝にご招待いたします。

なお、2021年度前学期は新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、リモート礼拝（動画の視聴）の形式で大学礼拝を行う予定ですが、写真のように一日も早く学生と教職員が一堂に会して礼拝を行える日が来ることを心待ちにしています。



【コロナ前の礼拝② 強調週間の講師の話真剣に聴く学生】

あ と が き

◇入学おめでとうございます。『出会い』84号（入学式号）をお届けします。新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、大学教育でも様々な制限が生じていますが、新入生と在学生のみな

さんが安心して「かけがえのないキャンパスライフ」を送ることができるように教職員が力を合わせて学生たちをサポートします。

(A.K.)

酪農学園大学キリスト教委員会  
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地  
Tel. 011-386-1111 (代表)



(酪農学園大学公式サイト)

出会い

No. 84 2021. 4. 5

キリスト教委員会



「二人または三人がその名によって集まるところには、私もその中にある。」

(マタイ福音書18章20節)

写真はコロナの影響によって無人のリモート礼拝が行われている黒澤記念講堂です。多いときには700人以上の学生と教職員が礼拝に集まるのですが、「二人または三人が」という聖書の言葉にもあるように、静まり返った講堂にいて、学生が集まってこそこの講堂だということを改めて実感させられます（コロナ前の礼拝の様子については8頁を参照）。

かけがえのない生命 (マタイ福音書16章26節) 一人の命は地球より重い

宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

communication であなたの世界 (community) を広げて

環境共生学類 資源再利用学研究室 押谷 一

酪農学園大学における様々な「出会い」

循環農学類 統計学研究室 毛利 泰大